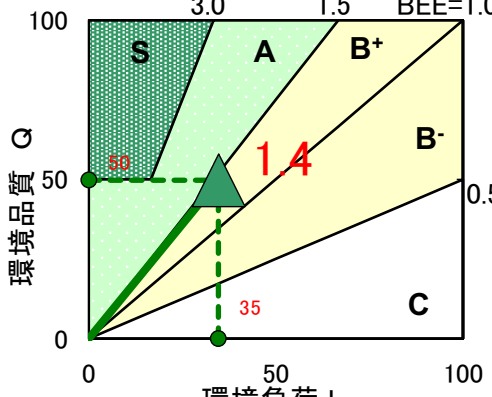
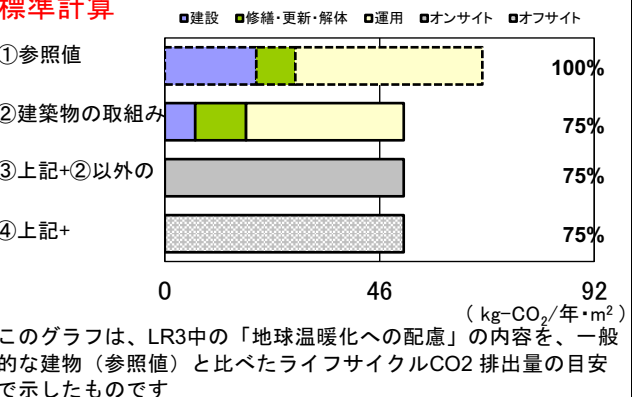
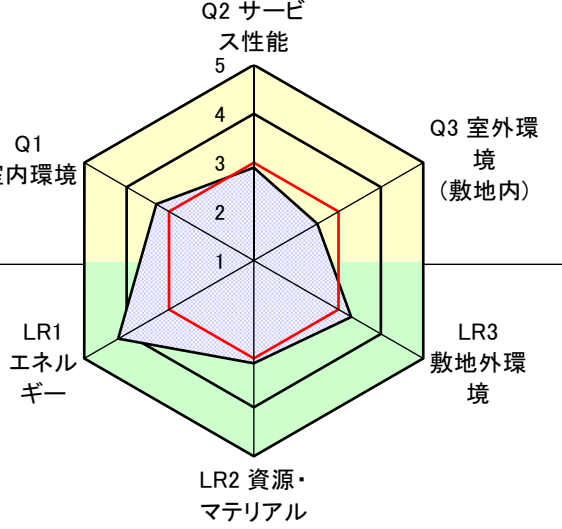


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	グランクレア榑木町	階数	地上15F		
建設地	名古屋市東区	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域,準防火地域	平均居住人員	291 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2021年10月28日		
敷地面積	1,883 m ²	作成者			
建築面積	691 m ²	確認日	2021年10月28日		
延床面積	7,273 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.4 ★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B-:★★ C:★ 	標準計算 ☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30% 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

環境要素	スコア
音環境	3.2
温熱環境	3.4
光・視環境	2.9
空気質環境	3.6
平均スコア	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

サービス要素	スコア
機能性	3.0
耐用性	3.1
対応性	2.8
平均スコア	2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.5

室外環境要素	スコア
生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5
平均スコア	2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

エネルギー要素	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0
平均スコア	4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

資源・マテリアル要素	スコア
水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0
平均スコア	3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.3

敷地外環境要素	スコア
地球温暖化	3.9
地域環境	2.9
周辺環境	3.1
平均スコア	3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
住宅性能評価で断熱等性能4等級、一次エネルギー消費量4等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。 屋上緑化の設置など、良好な緑地環境に配慮している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
外皮性能は住宅性能評価で断熱等性能4等級とし、省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。	躯体は住宅性能評価で劣化対策等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。	敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。 潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。	ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

グランクレア 檜木町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。